

「働きたいまち SENDAIを目指して」～「地学地就」を目的とした（仮称）IT科・（仮称）IT専攻科の創設と「産学官」連携によるデジタル技術を活用できる次世代エンジニアの育成～

1 プログラミング基礎力・応用力の習得（全学科で実施）

- 「学習指導要領」において教科「情報Ⅰ」（工業課程は「工業情報数理」）が必修科目となり、「工業人」として必要な知識やスキルを学校教員と産業実務家教員が連携しながら、TT形式の授業、実習を行う。
- 特に基礎的な「プログラミング」については「楽しさ」や「創造力」の育成を重点として取り組み応用力を養うために、各科の特性に応じた内容を盛り込む（1年目から実施）。

- (1) 産業と社会（補足項目等）
- (2) コンピュータシステム
- (3) プログラミング基礎と数値処理
- (4) プログラミング応用とアルゴリズム

4 メンタリング実施の準備（（仮称）IT科で実施）

- 令和6年度より希望する生徒に対し産業実務家教員によるメンタリングを実施し、社会人として必要なコミュニケーション力の向上を図る。
- 産業実務家教員に、高校生に対してのメンタリングに必要な技術・技能の研修を実施する（令和5年度）。
- 最終的には、新学科（仮称）IT科及び（仮称）IT専攻科の生徒に対して3～5年間の継続したメンタリングの基礎とする。

- (1) 令和6年度から就職希望者を対象に実施し、令和7年度より（仮称）IT科でも実施する。
- (2) 社会人基礎力の向上。
- (3) 学校外の社会人とのメンタリングを通してのコミュニケーション能力の向上。

2 最先端のデジタル技術習得（全学科で実施）

- 「実習」において産業実務家教員と担当教員がTT授業・実習を行い、現行の実習内容に企業で活用しているデジタル化した最新の技術を取り入れ、興味・関心を高める。
- 各科での専門的な実習では、様々な最先端機器を活用し、基本的な課題等を解決する力を育む。（学科によって1年目から実施）

- 【建築科】CADとBIMの違いやBIMを利用して建築設計・管理、建築現場のVRの活用等について触れる。
- 【機械科】学習用ロボットのプログラミングを通しての企業の生産性の効率化や実践的な3DCADやモデリングマシン等を用いての作品製作を行う。
- 【電気科】光ケーブルの接続や電気工事技術の基礎から応用までの学習、放射光の活用等を学ぶ。
- 【土木科】VRを活用した最先端の建設工事、老朽化した下水道等のインフラ整備と最先端技術を用いての調査、補修、最先端のドローン活用等を学ぶ。

5 最先端のデジタル技術習得（（仮称）IT科で実施）

- 成長が急速に見込まれるAI分野や、DXの推進に必要な人材育成のために「（仮称）IT科」を新設し、さらに地域関連企業へ就労可能な技術・技能を習得するために、2年課程の専攻科を設置する。
- 令和5年～令和6年3月までにマイスターハイスクールCEO並びに産業実務家教員、学校教員等で協議し、5年間の教育課程等の開発を行う。
- 同様に「求める生徒像」や「選抜方法」等を定める。

- (1) 令和7年4月創設（令和6年5月正式公表）。
- (2) 「新しい工業高校」のあり方を構築するため、「産学官」連携を強化する。
- (3) IT関連技術者の「地学地就」を推進する。
- (4) 事業終了後は地域企業への就労者を安定的に供給することを見据え、継続的な支援体制を構築する。

3 講話・インターン・社会貢献事業（全学科で実施）

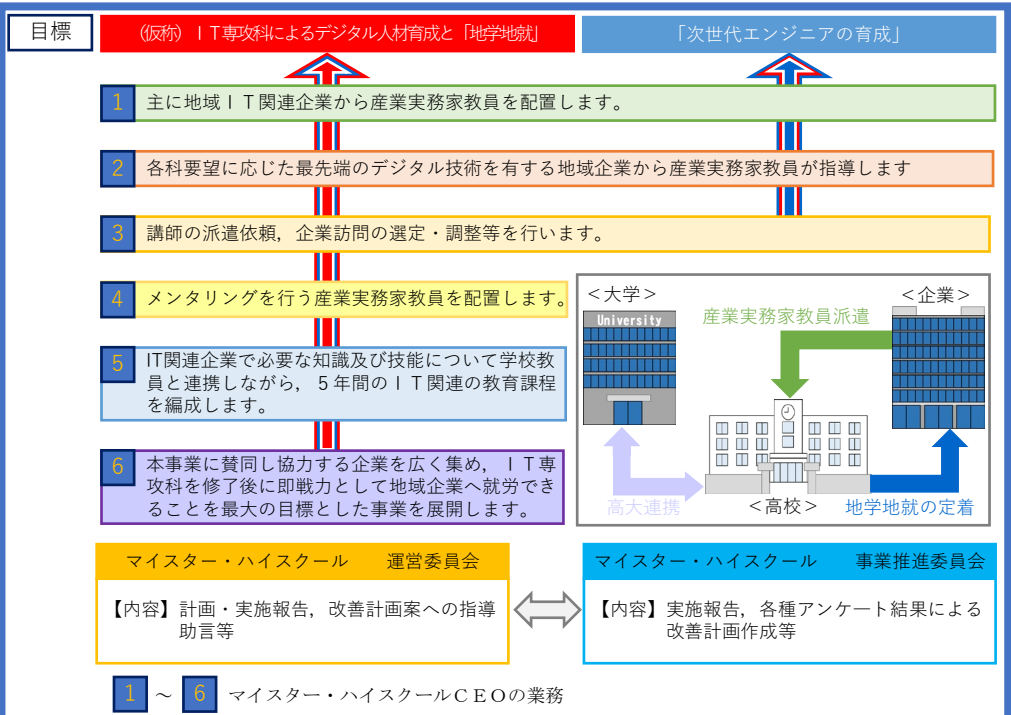
- 働く意義や社会人として必要なスキル、DXやAIの発達に伴い、これからの社会の方向性や求められる人材等についての講話を行う。
- 各科で習得した技術を基に、産業実務家教員の指導を受け、地域の要望に応じて、様々な社会貢献事業を実施し目的を達成することで自己肯定感を高める。
- 学科に関連する企業や大学、研究機関に訪問し、最先端のデジタル技術を活用した業務を実際に見学する（1年目から実施）。

- (1) 産業講話は一方向の講話ではなく、タブレット等を活用して講師と生徒の対話型の講話を実施する。
- (2) インターンシップは可能な限り全学科が実施できるよう準備を進める。

6 「地学地就」の定着に向けて（（仮称）IT科で実施）

- 教育課程はマイスター・ハイスクールCEO並びに産業実務家教員の意見を反映し作成する。さらにデュアルシステム等を取り入れ、自分の進むべき企業や業種を決定していく。
- 地域企業は将来を見据えた人材確保の一環として、短期企業研修等を行い、早期離職を防ぐ。
- 地域IT関連企業をはじめとする様々な業界にとって必要な「新たなイノベーション」を開発できる視野の広い発想力を持った人材を育成していく。

- (1) 4のメンタリングによる生徒理解と生徒のコミュニケーション能力の向上。
- (2) 企業見学・企業講話・デュアルシステムの実施（生徒のIT企業及び職業理解）。
- (3) 産学官連携による協同研究の推進や、各種コンテストへの参加等を通じて、生徒の学ぶ意欲を喚起する。



「働きたいまち SENDAI」を目指して
マイスター・ハイスクール事業の活用

